

ま え が き

信州大学環境問題研究教育懇談会による学際的な研究も発足以来10年目を迎え、成果も着実にあがり、いよいよ研究も佳境に入って来たように思える。

従来から信州を具体的な研究対象の場にして研究が展開され、基礎、応用の両面について信州はもとより、日本全国の環境問題に多くの指針を与えて来たものと自負している次第である。

本論文集は昭和60年度から3年間継続して実施されて来た特定研究「信州の環境保全と地域計画」の最後のしめくくりの年の成果を収録したもので、懇談会員各位の協力により17篇の貴重な論文及び記事としてもきわめて貴重な3篇の資料が記載されるはこびとなった。これも各研究者の日頃の努力とお互いの交流の賜物であり世話人としてこの上ない喜びである。

この3年間は森本が本懇談会のお世話をして来たが、元より浅学菲才のため、何かと不行き届きであったことを深く御詫びしたいと思う。来年度からは医学部上田五雨、村山忍三両教授に本会の座長をお願いして、「ハイテク時代における信州の環境保全と創造」というテーマのもとに、もっと社会とのつながりを密にして現在われわれのかかえている環境問題を解決していくための具体的な措置について研究をさらに大きく推進していくことになった。本プロジェクトチームがさらに大きくなり研究が今後もさらに継続して大きく展開していくことを祈念する次第である。なお、昭和57年～59年度の座長として本会の発展のために御尽力いただいた医学部釘本完教授をはじめ、本会の特徴ある学際的研究の中心的役割を担っていただいた医学部草間正三教授、理学部川端政一教授、繊維学部内田貞夫教授が本年3月に定年退官になる。今迄の御研鑽と本会への御協力に対し厚く御礼申し上げたい。

昭和63年3月

信州大学環境問題研究教育懇談会

世話人 森 本 尚 武